(3200)Phaethon観測 (2025/9/19)

日本とタイの高校生の共同観測計画(海外への掩蔽観測普及に向けて)

加瀬部 久司

おもな内容

• 国内高校の共同観測経緯

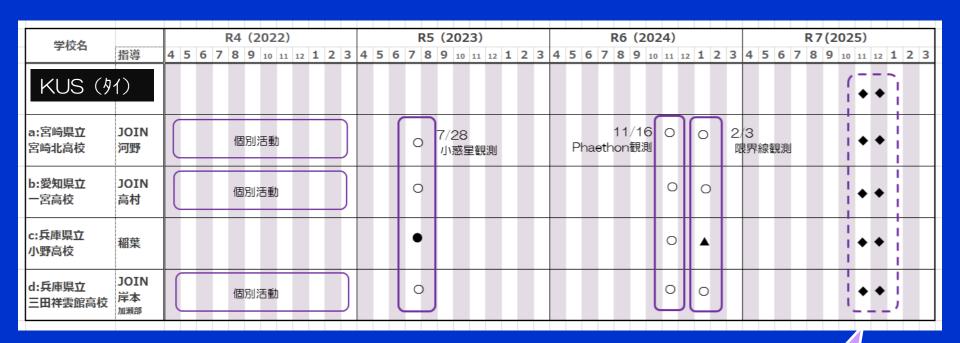
• タイの高校生との共同観測 紹介

体験から得られたこと

• IOTA/EAに期待すること

など

活動状況





現地指導

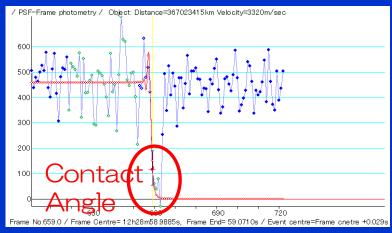
11/18(火)~23(日)

2023/7/28 はじめての4校共同観測

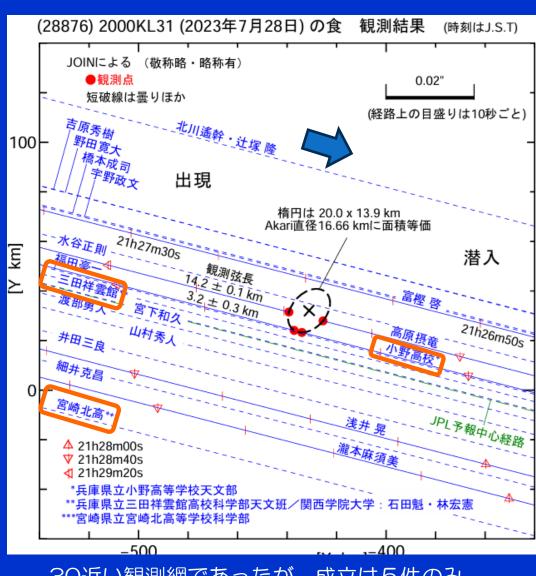
対象星は11.8mag、(28876) 2000 KL31、観測は各校で実施



小野高校の観測風景



減光時間: 0.754sec, C/A: 69°



30近い観測網であったが、成立は5件のみ

兵庫県立小野高

全国大会で受賞





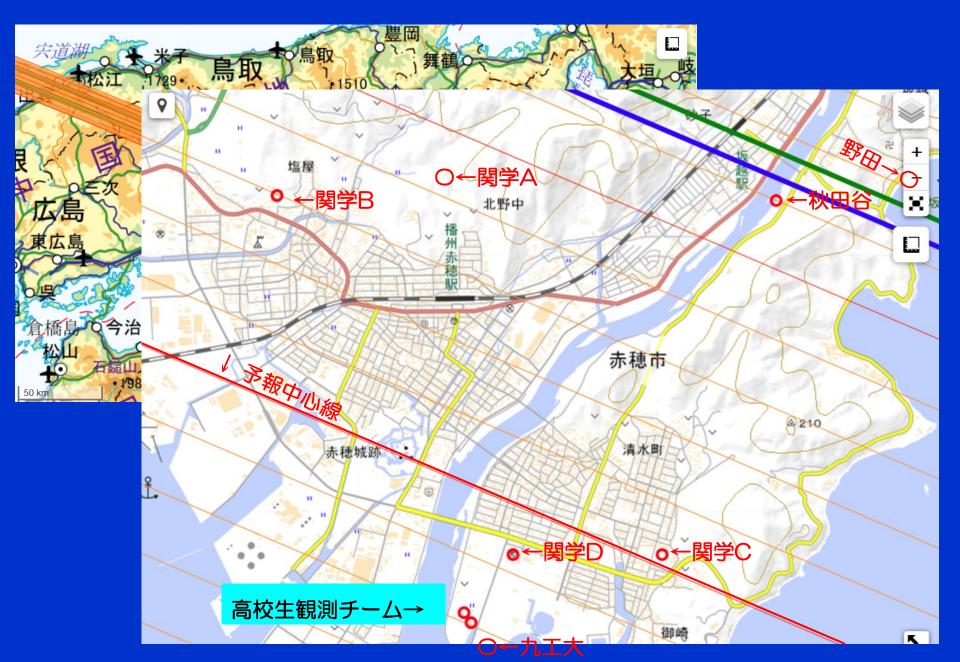
全国大会で発表



024年8月

全国総合文化発表会で奨励賞

2024/11/16 (土) Phaethon観測



2024/11/16 (土) Phaethon観測



本番前の待機中

参加学校	生徒数	望遠鏡
宮崎県立宮崎北高校	9	20cmF4+赤道儀
愛知県立一の宮高校	6	20cmF10+赤道儀
兵庫県立小野高校	8	20cmF4+赤道儀
兵庫県立三田祥雲館高校	6	20cmF4+赤道儀
計	28	女子生徒20名



観測は不成立

曇雨天メニュー

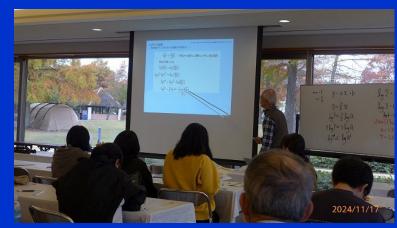


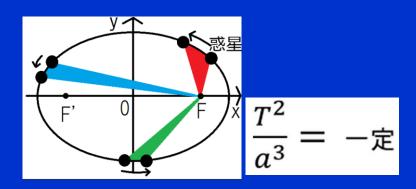
公園で塩づくり体験



各校の活動報告

ケプラーの第3法則など学習





公転周期の2乗と楕円の長半径 の3乗との比は、すべての惑星に ついて共通な一定値

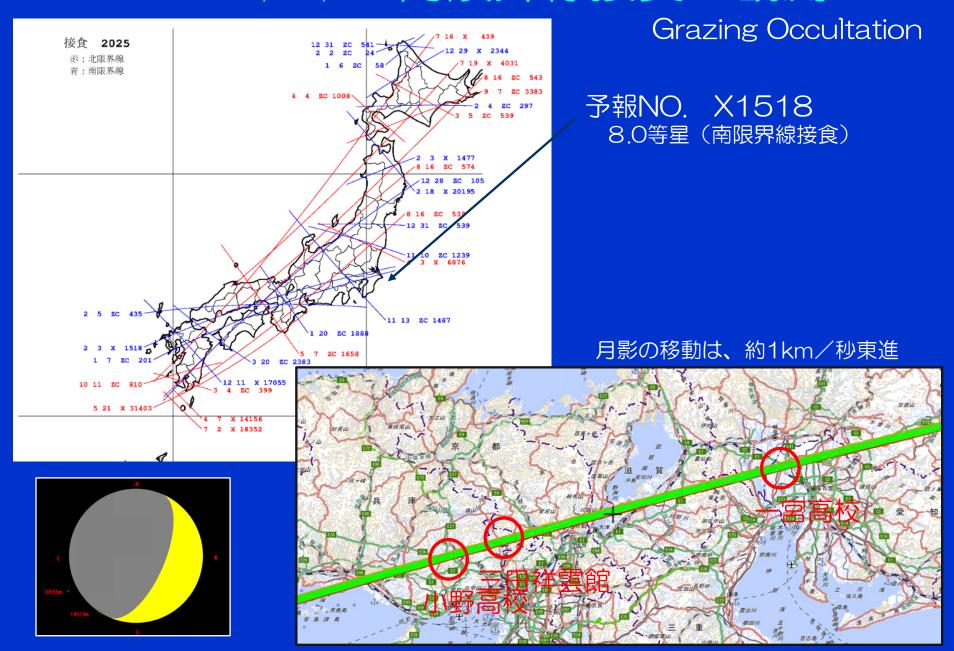
記念撮影 高校生のPhaethon観測チャレンジ



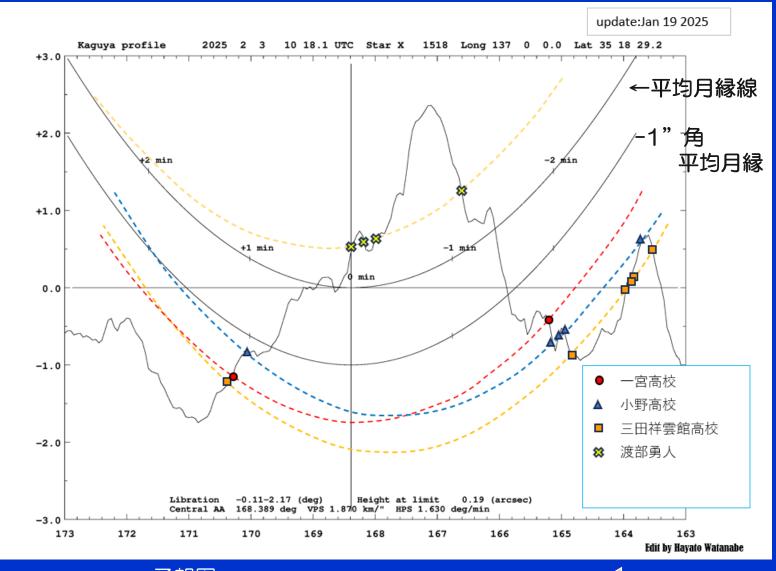
記念撮影

このあと宮崎北高生は、神戸大でのセミナーへ合流

2025/2/3 南限界線接食の観測



2025/2/3 南限界線接食の観測



予報図



タイと日本の高校生 による 小惑星共同観測



Somsak先生 スチャダ先生 (理科) (理科)



Andy先生 (化学)



Wongduan先生 (化学)



Kim先生 (日本語)





Tony (トンさん)

- Telescope Thailand
- タイ天文学協会会長 (The Thai Astronomical Society)
- KUS 卒業生







20cmGOTOドブ



動画カメラ



GPS受信器 withPPS



小野高校



宮崎北高校



河野先生

サポート





加瀬部

山村氏

岸本氏

National Astronomical Research Institute of Thailand





産業医大 吉田助教授



IOTA/EA

機材の選定

BKK 東経:100° 北緯:13°

キーワード 現地調達!





	最終:現地調達	当初:日本から持参?
1. □ 径	20cmF6 (セット品)	Vixen 2 0 cm F4
 架台の方式 (AC電圧) (マニュアル) (指導) (アフターサービス) 	経緯台 ←低緯度に最適(220V)(英語or現地語)(現地指導が期待できる)(継続して期待できる)	赤道儀 ←極軸合わせ難 (100V) (日本語) (日本人が実施?) (やや難)
3. 調達方法	現地購入	日本から送付(運搬?)
4. 制御	自動導入(PC制御可)	自動導入(PC制御可)
5. 価格	¥168, 300	¥536, 000
6. 注意点	水平重要、天頂苦手、写野回転	極軸合わせ

8/20(水) 望遠鏡一式提供



校内に天文同好会が結成された!

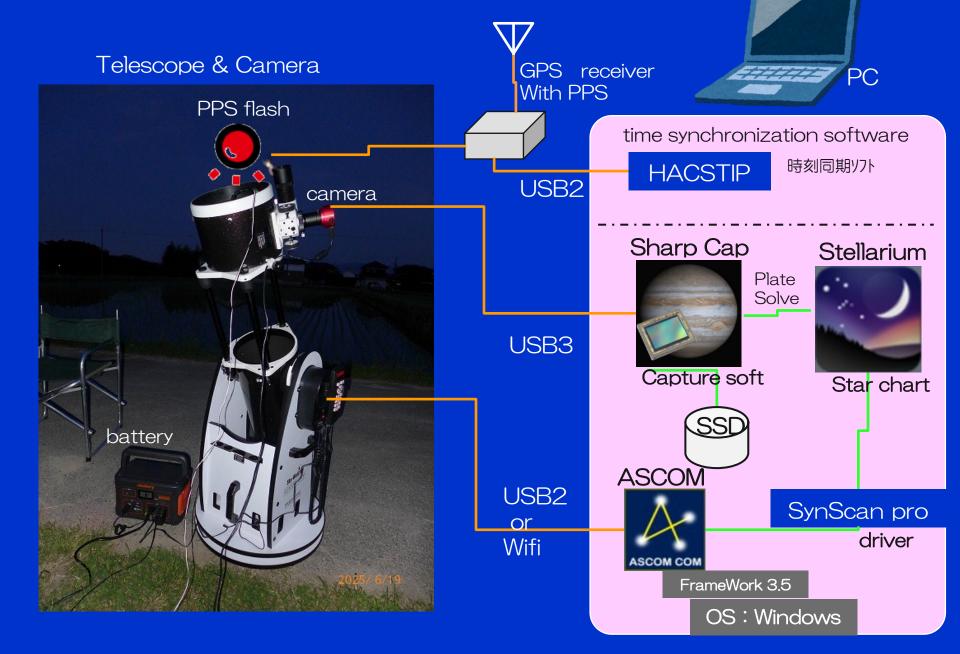
観測の作業ステップ

観測1時間前には、対象星を見つけよう!



機器の運搬

観測システム図



5/20ごろ 理科の先生やOB • 子供たちで観望会開催



星座早見盤の勉強会



望遠鏡の操作レクチャー



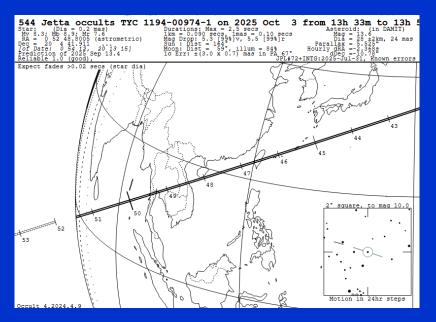
観望会



観望会

予報提供の重要性

2025/10/3 (544) Jetta

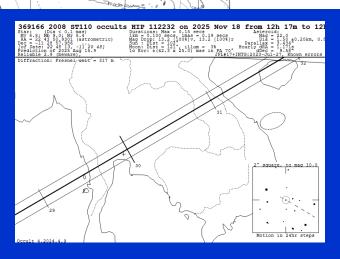


2025/11/18 (369166) 2009ST110



根元さんの掩蔽予報が、 大変役立っています。 感謝!

xmlファイルを送付

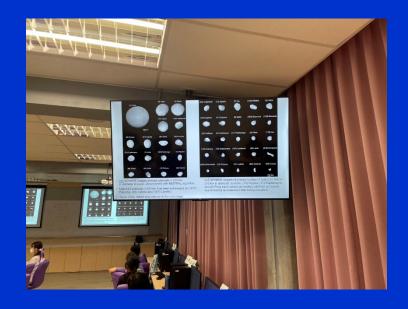


現在の現地状況:Occult4を使った予報抽出勉強会

9/12(金)有志約30名、大半中学生!

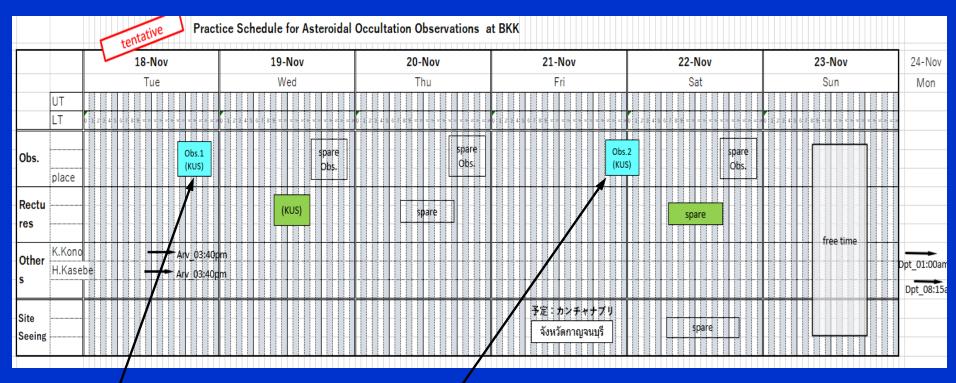


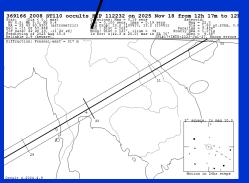


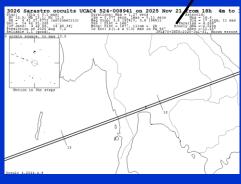




11/18(火)~23(日) 現地での活動(予定)







その他の課題

- 予報抽出方法
- 解析方法
- ・報告、その他



まとめ 海外普及への要点

- 1. 現地リソースの最大活用(ショップ、団体、ひと)
 - (1) 掩蔽観測は、アマチュアなど市民主体に普及させることが重要
 - (2) 潜在能力やモチベーションは、十分あると思われる。

2. 日本からのサポート

- (1) 英語版マニュアル・資料の提供・観測指南
- (2) 掩蔽予報(Occult4 xmlファイル)提供 ←現地専門家が育つまで
- 3. 定着化 →指導者育成、現地体制の構築
 - ①オンライン指導 ②現地指導 ③日本での集合研修? など

4. その他

- (1) GPS受信器 (PPS) の自作方法or提供体制
- (2) 観測機材、PCなど

この観測を通じ、何が期待できるか?

関西学院大学理学部 物理・宇宙学科 松浦教授より

- (1)期待される効果
 - ①太陽・地球・小惑星の位置関係や、天球座標への理解
 - ②小惑星の知識や、太陽系誕生期との関係性
 - ③NEO (地球接近型危険天体) への理解
 - 4望遠鏡の知識、きめ細かな操作能力
 - ⑤GPS受信やC-MOSセンサーなどの知識
 - ⑥解析方法や科学的手法への理解
 - <u>⑦共同で結果を出す手法である(競い合う方法でない)</u>
- ◎総合して、企画・準備・観測・解析・結果確認の流れ や技術の享受など、科学的プロセスを実体験できる
- (2) <u>結果が明確に表れる</u>ところは、本観測の特徴。 努力がすぐに報われ、感動と共に活力となる。

多くの知識と共に、総合的体系として学べる。

ビギナーは体験主体

階層 目的	高校生 (中学生)	大学生	— 般	成果	ポイント
A:調査・研究 (キャンペーン)	-	Δ	0	• 整合性重視 • 失敗不可	計画性・連携 水準合わせ 移動観測 テスト観測
B:通常観測		0	. 0 .	連携で成果失敗不可	個々観測の 集合 固定/移動
C:体験•普及		0		体験主体共同体験失敗あり	広域性 学校で観測 早めの時間帯 夏休み、週末

特に高校生の観測は、困難多すぎ!

生徒

知識、経験ほぼなし(知識=天文+機材原理・取扱 (指導=講義+実践)

- 実質2年間
- ・後輩への伝承は期待薄
- 観測日が少ない(月1~2回
- 参加者読みにくい



指導者

- 天文の指導者少数
- 予算限定的
- ・予定が立ちにくい
- 機材調達・コンディション

• 予報の提供必須

天候や諸事情で、計画変更多い

観測会の条件

- 計画
 - ① 学校長の許可 ②生徒の納得
 - ③ 保護者了解(文書で)
- •安全確保
- 観測は校内(校外は対象外)
- 時間の制約(例:20時までに下校
- 教員の働き方改革





掩蔽観測の現状

うまく行ってること

- 1.予報提供は大変ありがたい
- 2.オンラインでの指導支援をいただいている

課題とおもわれること

- 1. GPS受信器 (PPS) の入手経路がない
- 2. 予報やマニュアルが分散 ・・・HPにリンクを張る?
- 3. 海外からは…英語版マニュアル・資料少ない

まとめ IOTA/EAへの期待

- (1) 「キャンペーン」呼びかけは早めに発信
 - ① スケジュールや予算があり、半年~1年前には発信希望
 - ② 学生さんは、1カ月前には観測地決定・表明してほしい。
 - ③ そのためスプレッドシートは、1カ月以上前に公開。
- (2) 学校関係者への情報、動機付け
 - 1) 計画、予算確保
 - ② 基礎知識はオンライン活用
- (3) 実地指導・支援体制
 - (1) オンライン説明会
 - ② 必要により実技指導派遣 ←実際には限定的か?
- (4) その他
 - ① 普段から小惑星掩蔽観測や、星食観測体験でトレーニング

Limovie による解析マニュアル



日本天文同好会のHPで公開

https://jactenmon.web.fc2.com/

024年9月12日

Revision C.2



Limovieのアイコン

小惑星による恒星食

Limovieによる解析方法

(光度変化測定用ソフト: Ver.1.0.0.6A(Pneuma) を用いて)



2021/10/3	広島県尾道市百島に	ζ
小惑星(3200)Phaethonの遠征観測 風景		
(写真提供:関西学院大学理学部 林宏春氏)		

Section	作業Step	ページ
§ 1. 概要	1. 概 要	2
	2. 解析の流れ	3
	3. 各部の機能	4
§ 2. 解析	1. 時刻補正を行う(前段~後段)	5 ~ 11
	2. 予報データを読込む	12 ~ 13
	3. 測光グラフをつくる	13 ~ 17
	4. グラフと時刻のフィッティング	17 ~ 19
	5. 現象時刻を決定める (減光・復光)	20 ~ 21
§3. 報告	1. 結果をまとめ報告する	22 ~ 25
	2. 整約図を受けとる	41
§ 4. 補足資料	1. いろいろなグラフ結果を判断する	26 ~ 27
	2. 予備観測	28 ~ 29
	3. 各種資料	30 ~ 39
		~

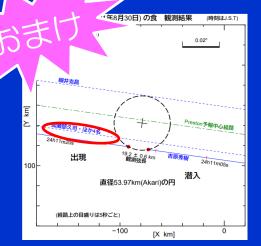
IOTA/EA, JOIN, 日本天文同好会、さんだ天文クラブ 加瀬部 久司 (発行責任者) (e-Mail: hikoboshi-k@ittkzagne.jp)



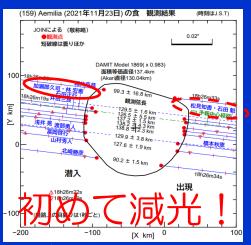
慣れないうちは経験者へ結果確認を!

2021年~

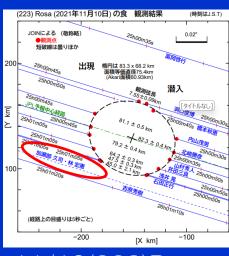
関西学院大学生との観測



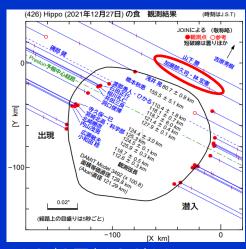
8/30(1280)Baillauda



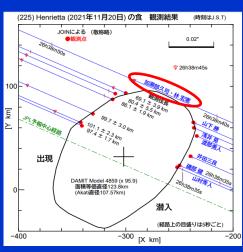
11/23(159) Aemillia



11/10(223)Rosa



12/27(426) Hippo



11/20(225) Henrietta



2023/9/17 イベント会場で実演

(0380) Fiducia 「#23 星をもとめて」会場にて 京都府南丹市 るり溪



約50名に実際の減光を見て貰った



解説中の筆者





おわり